

平成21年度 【 学園研究費助成金<学園研B> 】 研究成果報告書

学部名 現代マネジメント学部

フリガナ サワダ ゼンジロウ
氏名 澤田 善次郎

研究期間 平成21年度

研究課題名 サービス業（医療・介護）の生産性向上に関する研究

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	澤田 善次郎	現代マネジメント学部	教授
研究分担者			
研究分担者			

1. 本研究開始の背景や目的等（200字～300字程度で記述）

日本の労働生産性は、主要先進国の中で最低水準であることが問題とされている。OECD（経済協力開発機構）加盟30ヶ国の労働生産性ランキング（2005年）で20位となっている。労働生産性を高めていた最先端の製造業（自動車、電機）が、今般の金融危機で赤字状態に陥る中、サービス業（ここでは卸・小売、運輸、金融、保険・証券、電気通信、医療・介護・ビジネスサービス、家庭サービス、公共サービスなどを含む）の生産性向上は急務である。ここでは医療・介護について、とくに医療について実態を調査し研究した。

2. 研究方法等（300字以内で記述）

- ①医療・介護面への経営管理技法の活用について、文献・資料・ネット情報などを収集・解析した。
- ②日本各地域における代表的実践例を全国の生産管理学会役員等との情報交換を通し調査・解析した。

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

医療問題は、高齢化・少子化が進行しつつある日本にとって最も重要な解くべき問題である。大局的には、日本人の平均寿命の実績や、GDPに占める医療費全体の割合は他国に比し優れている。つまり、医療の生産性は決して低くはない。

しかし、自治体病院の赤字経営、救急医療の崩壊、医療事故多発など問題も多い。医療の生産性向上についてどのような主張や先行研究があるか“ものづくり”で確立したマネジメント技術(生産管理技術を含む)がどのように役立つのかについて調査・考察し医療の生産性向上10の視点・向上策としてまとめた。研究発表は、日本生産管理学会第30回全国大会(愛媛大学城北キャンパス2009年9月11日(金)～13日(日))において「医療の生産性向上に関する一考察」という題名で発表した。以下、医療の生産性向上10の視点、向上等を列挙する

- (1) 予防こそが医療の生産性向上の鍵
- (2) 高齢者医療への対応をきめこまかにする。
- (3) かかりつけ医(地元の診療所：クリニック・医院など)の養成を急ぐ
- (4) 独立行政法人化・公設民営化で自治体病院を再生する。
- (5) 一部の患者の身勝手、マスコミの無責任な報道を排除する。
- (6) 医薬品・医療機器等医療関連メーカーとの協力・最適選別による医療の生産性向上をめざす
- (7) 医療関連・支援サービスの活用による医療の生産性向上も大切
- (8) 生産管理技法の活用による生産性向上は、日本の使命
- (9) 医療価値の向上による生産性向上は世界のこれからの潮流
- (10) 官僚支配・大学病院支配の医療からの決別による生産性向上を目指せ

4. キーワード (本研究のキーワードを1以上8以内で記載)

①医療の生産性向上	②予防	③高齢者医療	④かかりつけ医
⑤独立行政法人化	⑥マスコミ報道	⑦医療関連メーカー	⑧医療関連・支援サービス

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

(1) 研究成果

日本生産管理学会第30回全国大会にて 発表 (2009年9月13日(日))

発表者： 澤田 善次郎

発表表題： 医療の生産性向上に関する一考察

学会名： 日本生産管理学会

掲載誌名： 第30回全国大会講演論文集, 2009年9月12日, pp137～140

(2) 今後の展望

日本の生産管理は「物づくりに役立つ生産管理」から非製造業・間接部門にも役立つ生産管理への脱皮が期待されている。介護の生産性向上に関する研究も継続して取り組む所存である。